=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>=>==>

Tokyo Center for Economic Research　東京経済研究センター

http://www.tcer.or.jp/

NEWSLETTER　No.36　August　2009

発行責任者：岡崎　哲二（東京大学・TCER 代表理事）

=>

目次

１．理事会からのお知らせ
（１）代表理事挨拶
（２）2009 年度第 1 回理事会・研究員会報告
（３）2009 年度第 1 回評議員会報告
（４）追悼：清野一治理事
（５）2009 年度研究助成決定のお知らせ

２．**TCER** 研究会

３．コンファレンス等ご案内・報告
（１）**2009** 年度 **NBER-TCER** 東アジア経済セミナー報告
（２）**2009** 年度 **TCER** コンファレンス「アジアの経済危機」報告
（３）**2009** 年度 **TCER** ミクロコンファレンス（**DC** コンファレンス）報告
（４）**ERIA** プロジェクト報告
（５）**2009** 年度 **NERO** コンファレンス
（６）**2009** 年度 **TCER** マクロコンファレンス
（７）**2009** 年度 **TCER** プロジェクト（旧逗子コンファレンス）

１．理事会からのお知らせ

（１）代表理事挨拶

依然として予断を許さないとはいえ、直近のデータは、昨年秋以降の経済危機がようやく終息に向いつつあることを示しているように見えます。経済危機への直接的な対応、経済危機が引き金となって行われている制度の見直しに関する論議等において、経済学および経済学研究者の役割はこれまで以上に大きなものとなっています。TCER では、昨年来の経済危機に関して、個々の研究員による研究・政策提言のほか、東京大学金融教育研究センターと共済で CARF-TCER 緊急セミナー「金融・資本市場の混乱とグローバルな経済危機」を開催するなどの活動を行ってきました。今後とも、さまざまな政策課題に関して、経済学研究の立場から適時適切な貢献をしてまいりたいと考えています。

TCER が現在直面している課題の 1 つに、公益法人への移行があります。2008 年 12 月に「公益法人制度改革関連 3 法」が施行され、これまでの財団法人が、あらたに設けられる公益財団法人と一

般財団法人に区分されることになったことに伴うものです。TCER 自体および TCER に寄付をしていただく方々への税制上の優遇措置等を考慮して、私どもは、TCER の公益財団法人への移行をできるだけ速やかに実現したいと考えています。現在、公益財団法人への移行申請に必要な規程類の準備と手続きをほぼ完了し、今秋には内閣府に申請書を提出する予定です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年 6 月末、長年にわたって研究員・理事として TCER の活動に多大な貢献をしてこられた早稲田大学の清野一治教授が急逝されました。訃報に接するちょうど１週間前に受け取った TCER 理事会に関するメールが、清野教授からの最後の連絡となりました。必ずしもご体調がすぐれない中、最後まで全力で多くの仕事に取り組んでおられた清野教授の姿勢を思う時、本当に胸がつまる思いが致します。本ニューズレターには東京大学の奥野正寛教授から、清野教授への追悼文をご寄稿いただいています。謹んで清野教授のご冥福をお祈り致します。

（２）2009年度第１回理事会・研究員会報告

2009 年度第 1 回理事会は、2009 年 4 月 27 日（月曜日）午後 0 時ー午後 2 時、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。2008 年度の事業報告案、2008 年度会計報告案、公益法人化に向けた手続きと規則の整備、評議員選考委員等が審議されました。その後、引き続き研究員会が開催され、理事会より提案された事業報告、会計報告、および公益法人化にむけての行動計画が承認され、規則の整備等は理事会に託されることになりました。委任状等で研究員会開催にご協力された皆様、ありがとうございました。

TCER 研究員会は過半数の研究員の出席または委任状がないと成立しません。このことを念頭に今後とも、研究員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

（３）2009年度第１回評議員会報告

2009年度第１回評議員会は、2009年5月11日（月曜日）午前11時30分ー午後0時30分、日本工業倶楽部にて開催されました。2008年度事業報告、2008年度会計報告、公益法人化にむけての基本財産額の変更、定款と規定の変更について審議、承認されました。また、2008年度研究助成者と、公益法人になるに当たって必要となる評議員選考委員会の委員内諾者について報告されました。

（４）追悼：清野一治理事

2009年6月29日、早稲田大学の清野一治教授（現、TCER理事）が亡くなられました。TCERニューズレターでは、通常は研究員の訃報を扱わない方針ですが、現在の理事であり、長年TCERに貢献されてきた清野先生については特別に、東京大学の奥野正寛教授にお願いして、ここに追悼文を掲載することにいたしました。

清野一治さんを偲んで

早稲田大学教授で TCER 理事の清野一治さんが急逝された。51 歳だった。日曜の朝から深夜まで仕事をされていて、研究室で不帰の客となられたそうである。今でも信じられない思いでいっぱいだが、心からご冥福を祈りたい。

清野さんは、私にとってかけがえのない友人であり同僚であった。初めてお目にかかったのは、1983・84 年に TCER の逗子コンファレンスで産業政策を取り上げたときである。理論担当になった鈴村興太郎さんや伊藤元重さんと作業を始めたとき、伊藤さんの推薦で参加して頂いたのが、当時東大大学院生だった清野さんだった。過当競争とか産業育成といった概念を標準的な経済学の言葉で定義し、その政策の意味を検討しようという野心的な試みだったが、清野さんは院生とは思えない該博な知識と持ち前の行動力で、幾つもの独創的な研究を生み出した。特に伊藤さんとの研究は Journal of Political Economy、鈴村さんとの研究は Review of Economic Studies という世界でも超一流の専門誌に発表され、大学院生としては信じられないその驚異的な成果は世間から大きな注目を集めた。

この共同研究はコンファレンス議事録『日本の産業政策』の中心章として公表され、さらに 4 人の共著『産業政策の経済分析』に結実した。後者は伊藤・鈴村両氏が海外出張したこともあり、相当部分を清野さんと私で新規執筆した。戦略的産業政策・幼稚産業保護論・研究開発問題など、世界最先端の研究分野であるか蓄積豊富な伝統的分野であるかを問わず、高度な論文を読みこなし素人にもわかる平易な文章で解説を書かれる清野さんを見て、どちらが経済学の先輩なのかと新鮮な驚きを覚えた。同書は幸い日経図書文化賞を受賞することになり、産業政策という当時の経済学からは異端の政策を擁護した 4 人は、「日本の産業政策」の共編者でもあった小宮隆太郎先生から、「4 人組」という名前を頂戴した。4 人の中で 1 世代若い清野さんにとってありがたくもあり迷惑でもある話だったろう。

このことからもわかるように、応用ミクロ経済学を専門とする清野さんの傑出した能力は、最新の独創的な理論を複雑な現実に応用しながら、その全体像を初学者にも容易にわかる形で提示することにあった。ご自分の博士論文をまとめた 1993 年の「規制と競争の経済学」は、ゲーム理論など当時の最先端分野における極めて高度な理論研究を基礎としながら、初学者や実務家向けの明快でわかりやすい解説の章が幾つも付け加えられていて、その後の公益事業規制や産業組織論、貿易論の展開に大きな影響を与えた。

人間として研究者として、清野さんほど誰からも好かれていた人を知らない。子供のような人懐こさと、頼まれると決して嫌といえない優しい性格は、本当に誰からも愛された。その優しい性格と類い稀な行動力を頼って、私もしばしば清野さんのご好意にすがった。いつも手放せないお酒とタバコを手に、「先生との論文、あそこの計算がどうしてもうまくゆかないんですよねー」と、泣き言とも繰り言ともつかない話を彼から何時間聞き続けただろう。とはいえ清野さんには、研究・行政・教育・学界活動すべてにわたり、数多くの労多くして益少ないさまざまな事柄を快くお引き受けいただいた。そのために、ご本人がどれだけ多くの自分の研究を犠牲にされたのかと思うと、内心忸怩たるものがある。

同じことは同僚、共同研究者、学生・院生など、清野さんと何らかの形で関係を持たれた多くの人にあてはまるだろう。TCER もまた、会員として理事としての清野さんから大きな恩恵を受けてきた。世話役を務めた地球環境問題のコンファレンスは『地球環境保護への制度設計』に結実したし、ここ数年間は早稲田大学出身理事として代表理事を支え、長年の懸案だった TCER の事務所設置やジュニア・ワークショップの立ち上げという難題を解決されてきた。

清野さんはまた、貿易論をはじめとする経済政策や応用ミクロ理論研究の中心的存在として、あるいは日本経済学会や TCER などの経済学関連の様々な組織のリーダーとして、そしてまた早稲田

大学のエースとして、まさにこれからの日本の経済学界をリードして行こうとする逸材だった。そんな清野さんを突然失ってしまったことは、日本の経済学界にとって計り知れない損失である。また、残されたご遺族にとってその悔しさは言葉にも尽くせぬものだろう。清野さんの TCER をはじめとする学界への大きな貢献に改めて深く御礼申し上げるとともに、清野さんが心から愛された奥様とお二人のお嬢様のご健勝を心からお祈りしたい。

清野さん、安らかに眠ってください。

東京大学大学院経済学研究科　奥野正寛

（５）2009年度研究助成決定のお知らせ

2008年度より再開されました本研究助成制度は、経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することが目的として設立されたものです。公益法人への移行計画に伴い、これまで研究員のみと限ってきました応募資格をオープンにすることになりました。2009年度のTCER研究助成は7件の応募があり、6件に助成することに決定いたしました。

２．　TCER 研究会

2009 年度の TCER 研究会は東京大学にて、東京大学マクロワークショップ、および東京大学ミクロワークショップとの共同開催の形で開催されます。
マクロワークショップのウェブサイト：
http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/workshops/macro/macro.html
ミクロワークショップのウェブサイト：
http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/workshops/micro/micro.html
に最新の情報があります。前期の研究会を掲載いたします。

日時：2009年 4月 7日（火）　午後4:50〜6:30
報告者：中田　啓之氏(University of Essex)
論題：“Defaults, Shortsales and the Social Costs of Volatility”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 4月 9日（木）　午後4:50〜6:30
報告者：塩路　悦朗氏(一橋大学)
論題：“Uncertainty shocks and financial intermediation in a dynamic general equilibrium model: a Markovian Jump Linear Quadratic Approach”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 4月14日（火）　午後4:50〜6:30
報告者：Albert Park氏（University of Oxford）

論題：“ Exporting and Firm Performance: Chinese Exporters during the Asian Financial Crisis ”
(joint with Dean Yang, Xinzheng Shi, and Yuan Jiang)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 4月16日（木）　午後4:50〜6:30
報告者：Yuki Teranishi氏(日本銀行)
論題：“ Global Liquidity Trap”　(joint with Ippei Fujiwara and Nao Sudo)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 4月21日（火）　午後4:50〜6:30
報告者：Karl Warneryd氏（Stockholm School of Economics）
論題：“ Observable Strategies ”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 4月23日（木）　午後4:50〜6:30
報告者：櫻川　昌哉氏(慶應義塾大学)
論題：“ Bubble Cycles”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 4月30日（木）　午後4:50〜6:30
報告者：楡井　誠氏(一橋大学)
論題：“ Distributional test for endogenous effects: A case of lumpy investments” (joint with Chaoqun Lai)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 5月 7日（木）　午後6:00〜8:00
報告者：宇南山　卓氏(神戸大学)
論題：「家計調査の課題と改善に向けて」
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第2教室

日時：2009年 5月12日（火）　午後4:50〜6:30
報告者：斎藤　経史氏（科学技術政策研究所(NISTEP)）
論題：「農地の転用機会が稲作の経営規模および生産性に与える影響：日本ではなぜ零細農家が滞留し続けるのか」
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 5月14日（木）　午後4:50〜6:30
報告者：伊藤　宏之氏(Portland State University)
論題：“ The Emerging Global Financial Architecture: Tracing and Evaluating the New Patterns

of the Trilemma's Configurations”(joint with Joshua Aizenman and Menzie D. Chinn)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 5月19日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：鈴木　通雄氏（日本銀行金融研究所）
論題：“Occupational mobility and consumption insurance”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 5月21日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：池田　新介氏(大阪大学)
論題：“Time preference induced by risk aversion”(Joint with Keiichi Tanaka)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 5月26日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：Oleksandr Movshuk氏（Toyama University）
論題：“Household Saving over the Life Cycle: International Evidence from Micro Data”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月 2日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：奥村　綱雄氏（Yokohama National University）
論題：“Concave-Monotone Treatment Response and Monotone Treatment Selection: With Returns to Schooling Application” （joint with Emiko Usui）
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月 4日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：大津　敬介氏(上智大学)
論題：“International business cycle accounting: the case of Japan and the U.S. 1980-2008”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月 9日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：Jeff Kline氏（Bond University）
論題：“Transpersonal Understanding through Social Roles, and Emergence of Cooperation” （joint with Mamoru Kaneko）
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月11日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：脇田　成氏(首都大学東京)
論題：“Monetary Policy in Japan Reconsidered: A Regime-switching VAR Analysis” (joint with Hirokuni Iiboshi and Masanobu Umeda)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月16日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：小島　武仁氏（Stanford University）
論題：“Implementing Random Assignments: A Generalization of the Birkhoff-von Neumann Theorem” (joint with Eric Budish, Yeon-Koo Che and Paul Milgrom)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月23日（火）　午後0:00ー1:30
報告者：Edward Green氏（Penn State University）
論題：“Efficient Contracts, Inefficient Equilibria, and Renegotiation”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟4階　トレーディングラボ

日時：2009年 6月23日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：服部　正純氏(日本銀行)
論題：“Incentive of Loan Screening and Credit Quality of Securitized Products in OTD Business Model”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月25日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：敦賀　貴之氏(関西大学)
論題：“The Law of One Price without the Border: the Role of Distance versus Sticky Prices” (joint with M. J. Crucini and M. Shintani)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 6月30日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：山本　裕一氏(Harvard University)
論題：“Perfect Public Ex-Post Equilibria of Repeated Games with Uncertain Outcomes” (joint with Drew Fudenberg)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 7月 2日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：川口　大司氏(一橋大学)
論題：“Minimum Wage in Deflationary Economy: Experience of Japan, 1994-2003” (joint with Ryo Kambayashi and Ken Yamada)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 7月 7日（火）　午後0:00ー1:30
報告者：渡辺　安虎氏(Northwestern University)

論題：“ Inferring Strategic Voting ” (joint with Kei Kawai)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階　第1共同研究室

日時：2009年 7月 7日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：宇井　貴志氏(横浜国立大学)
論題：“ Ambiguity and Risk in Global Games ”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 7月 9日（木）　午後6:30ー9:00
報告者：中田　啓之氏(エセックス大学ビジネススクール)
論題：「災害リスクの経済学入門：理論と実証」
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階　第1共同研究室

日時：2009年 7月14日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：手嶋　健介氏(京都大学)
論題：“ Import Competition and Innovation at the Plant-level: Evidence from Mexico ”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 7月16日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：Kanda Naknoi氏(Purdue University)
論題：“ Exchange Rate Pass-through and Market Structure in Multi-country World ” (joint with David Hummels)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第4教室

日時：2009年 7月21日（火）　午後0:00ー1:30
報告者：中島　大輔氏(University of Michigan)
論題：“ Revealed Attention ” (joint with Yusufcan Masatlioglu and Erkut Ozbay)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階　第1共同研究室

日時：2009年 7月21日（火）　午後4:50ー6:30
報告者：田中　知美介氏(Arizona State University)
論題：“ Handouts without handshakes: Patronizing out-group preferences ” (joint with Colin F. Camerer)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第3教室

日時：2009年 7月23日（木）　午後4:50ー6:30
報告者：北川　章臣氏(東北大学)
論題：“ Hiring Policies, Worker Employability, and Labor Market Performance ”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階　第4教室

日時：2009年 7月27日（月） 午前10:00～12:30
報告者：Daeyeo Lee氏(Yale University)
論題：“Neurobiological basis of social decision making”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第3共同研究室

日時：2009年 7月27日（月） 午後0:00～1:10
報告者：Yasuo Terajima氏(Bank of Canada)
論題：“Real Effects of Price Stability with Endogenous Nominal Indexation” (joint with Cesaire Meh and Vincenzo Quadrini)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2009年 7月27日（月） 午後5:00～6:30
報告者：Daeyeo Lee氏(Yale University)
論題：“Single neurons and decision making in the primate brain”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 7月28日（火） 午後4:50～6:30
報告者：鎌田 雄一郎氏(Harvard University)
論題：“Sequential Implementation of Unenforceable Contracts with Stochastic Transaction Costs” (joint with Neel Rao)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第4教室

日時：2009年 7月30日（木） 午後4:50～6:30
報告者：西山 慎一氏(Bank of Canada)
論題：“How Important are Financial Shocks for the Canadian Business Cycle?”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第4教室

日時：2009年 8月 6日（木） 午後4:50～6:30
報告者：Yuliy Sannikov氏(Princeton University)
論題：“Macroeconomic Model with a Financial Sector” (joint with Marcus Brunnermeier)
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第4教室

日時：2009年 8月11日（火） 午後0:00～1:10
報告者：大垣 昌夫氏(Ohio State University)
論題：“Purchasing Power Parity and the Taylor Rule”
場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第4教室

３．コンファレンスご案内・報告

（1）2009 年度 NBER -TCER 東アジア経済セミナー報告

本年の NBER- TCER 共催、東アジア経済セミナーは、第 20 回を数え、Commodity Prices and Market をテーマに、6 月 26- 27 日の両日、香港で開催されました。最近 2 年間、原油をはじめとして、商品価格が乱高下しました。このような商品価格の動向がファンダメンタルズから説明できるのか、バブルプロセスに載っているのか、など、商品価格にまつわる諸問題についての論文が発表され、活発な議論が展開されました。

プログラムは、

http://www.nber.org/~confer/2009/ease09/program.html

にあります。

（2）2009 年度 TCER コンファレンス「アジアの経済危機」報告

東京経済研究センター（TCER）では、東京大学大学院経済学研究科附属・日本経済国際共同研究センター（CIRJE）と共催で、毎年、TCER コンファレンス「アジアの経済危機」を開催しています。本コンファレンス・シリーズの目的は、アジア太平洋諸国の研究者とともに、「東アジア諸国で経済危機が発生することを防ぐにはどうすればよいか？」など、東アジア経済が直面する諸問題を理論的・実証的に分析することです。本年度のコンファレンスは、2009 年 6 月 27-28 日にカリフォルニア大学サンタクルーズ校で行われた APEA コンファレンスの特別セッションとして開催されました。日本からは、小川英治（一橋大学）、福田慎一（東京大学）、随清遠（横浜市立大学）、佐々木百合（明治学院大学）、清水順子（専修大学）、鯉渕賢（千葉商科大学）、中村純一（日本政策投資銀行）ら（敬称略）が参加されました。

1997年に深刻な危機を経験した東アジア経済は、その後に目覚ましい回復を示したものの、危機の再発防止に向けた分析やそのための制度設計は依然として重要な研究テーマです。当時の経済危機はきわめて深刻なものであり、その教訓はそれまでの東アジアの経済システムの是非を含めて数多くの論争を生み出しています。危機後、中国の台頭や世界的資金余剰など、東アジア諸国を巡る経済環境は大きく変化しました。また、昨年来の世界同時不況は、当初は危機とは無縁であると考えられていたアジア経済にも大きなダメージを与えました。本年度のコンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に世界各国から経済学者が参加し、昨今の世界同時不況がアジア経済に与えた影響を含め、東アジア諸国が直面する重要な政策的課題を経済学の観点から活発に議論を行いました。会議の詳細は、http://www.apeaweb.org/confer/cruz09/index.htmで閲覧可能ですが、以下がTCERからの参加者が報告した論文のタイトルです。

報告論文１：Junko Shimizu (Senshu University) and Eiji Ogawa (Hitotsubashi University), AMU Deviation Indicators and Coordinated Exchange Rate Policies under the Global Financial Crisis

報告論文２：Yuri Sasaki (Meiji Gakuin University) Exchange Rate Pass Through in Japanese Automobile Trade – Empirical Analysis based on the Interviews with Japanese Automobile Companies

報告論文３：Qing-yuan Sui (Yokohama City University) Some Causes and Consequences of the Changes in Accounting Rule: the Case of Japanese Banks

報告論文４： Shin-ichi Fukuda (University of Tokyo) and Junichi Nakamura (Development Bank of

Japan) Why have "Zombie Firms" Recovered in Japan?

（3）2009 年度 TCER ミクロコンファレンス（DC コンファレンス）報告

今年度の TCER ミクロコンファレンスは、第 15 回ディセントラライゼイション（DC）コンファレンスと共同開催の形で 2009 年 8 月 2 日（日）に政策研究大学院大学にて行われました。例年ミクロコンファレンスは 9 月に行われる日本経済学会の秋季大会の前日に開催されていましたが、今年度は同大会が 75 周年を迎えるため、ホスト大学の負担増を勘案して変則的に 8 月の開催となりました。内容については例年同様、招待講演と投稿論文から構成されました。

投稿論文では、ミクロ経済学の理論的アプローチに関する論文を中心に応用論文も集まり、(1) 9 時 30 分から 11 時 30 分、(2) 13 時から 15 時、(3) 15 時 30 分から 16 時 50 分の 3 つの時間帯に分かれ、それぞれ 2 つの平行するセッションにて計 15 本の論文が報告されました。

また、17 時 20 分から 18 時 20 分まで小原一郎准教授（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）に招待講演を行って頂きました。総参加者数は約 60 名で、活発に意見交換が行われ、大変有意義なコンファレンスとなりました。プログラム委員およびプログラムの詳細は以下の通りです。（敬称略）

プログラム委員

梶井厚志（京都大学）、北野泰樹（政策研究大学院大学）、グレーヴァ香子（慶應義塾大学）、関口格（京都大学）、武岡則男（横浜国立大学）、安田洋祐（政策研究大学院大学）

プログラム

報告 1A　座長：郡山幸雄（エコールポリテクニーク）
政治の経済分析　9:30-11:30
9:30 – 10:10　浅古泰史（ウィスコンシン大学）
“Partially Binding Platforms and the Advantages of Being an Extreme Candidate”
10:10 – 10:50　石原章史（ロンドンスクールオブエコノミクス）
“Relational Political Contribution under Common Agency”
10:50 – 11:30　鎌田雄一郎（ハーバード大学）
“Voter Preferences, Polarization, and Electoral Policies” with Fuhito Kojima

報告 1B　座長：奴田原健悟（専修大学）
マクロ経済理論　9:30-11:30
9:30 – 10:10　平野智裕（金融庁金融研究研修センター）
“Financial Development and Amplification”
10:10 – 10:50　宮崎浩一（ペンシルバニア州立大学）
“Efficiency and Lack of Commitment in an Overlapping Generations Model with Distributional Shocks”

10:50 － 11:30 髙橋青天（明治学院大学）
“An Unbalanced Multi-sector Growth Model with Constant returns: A Turnpike Approach”

報告 2A 座長：高橋悟（プリンストン大学）
繰り返しゲームの理論と応用 13:00-15:00

13:00 － 13:40 木内祐輔（大阪大学）
“The Optimal Degree of Commitment in a Tax Policy”
13:40 － 14:20 露原邦夫（トロント大学）
“Repeated Moral Hazard with Worker Mobility via Directed On-the-Job Search”
14:20 － 15:00 山本裕一（ハーバード大学）
“Type-Contingent Perfect Public Ex-Post Equilibria” with Drew Fudenberg

報告 2B 座長：国本隆（マギル大学）
意思決定理論 13:40-15:00

13:40 － 14:20 加田修（横浜国立大学）
“Pre-probabilistic Sophistication”
14:20 － 15:00 笠島洋一（ロチェスター大学）
“Reflecting Inequality of Claims in Gains and Losses” with Rodrigo Velez

報告 3A 座長：中島大輔（ミシガン大学）
ネットワークとマッチング 15:30-16:50

15:30 － 16:10 飯島良太（東京大学）
“Social Distance and Network Structures” with Yuichiro Kamada
16:10 － 16:50 渡部真弘（ワシントン大学セントルイス校）
“Implementation of the Core in Two-Sided Matching with Substitutable Contracts”

報告 3B 座長：北野泰樹（政策研究大学院大学）
ゲーム理論の応用 15:30-16:50

15:30 － 16:10 中泉拓也（関東学院大学）
“Field Experiment on Incentive of Communication and Compilation and Evaluation” with Mitsuharu Watanabe
16:10 － 16:50 趙来勲（神戸大学）

“Tainted Food, Low-Quality Products and Trade” with Jean Marie Viaene

招待報告　　座長：宇井貴志（横浜国立大学）
招待セッション　　17:20-18:20

17:20 － 18:20 小原一郎（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）
“Information Lag and Efficiency”

また、今年度は Logic, Game Theory and Social Choice 6 (LGS6)が TCER 共催のミクロコンファレンスとして 2009 年 8 月 26-29 日に筑波大学で開催されました。LGS6 のウェブサイトは http://www.lgs6.org/ です。

（4）ERIA プロジェクト報告

ERIA プロジェクトでは、ASEAN 諸国における直接投資環境を分析し、直接投資誘致における障壁を明らかにすることで、投資環境の改善に向けての提言をまとめました。報告書の目次は以下です。

Investment Climate Study on ASEAN Member Countries

Contents

1. Introduction
2. ASEAN's business environment from the global perspective
3. Assessment of FDI policy regimes based on legal documents
4. Assessment of FDI environment based on firm survey
5. Concluding remarks and policy recommendations

（5）2009 年度 NERO コンファレンス

2009 年度の NERO コンファレンスは OECD 本部にて 9 月 21 日に開催予定です。TCER からは植田和男教授（東京大学）が参加予定です。予定プログラムを掲載いたします。

Meeting of National Economic Research Organisations, OECD Headquarters, Room CC6, 21 September 2009: Agenda

10:00-10:15 Introductory remarks

10:15-11:40 Understanding the crisis

Hans Werner SINN	IFO Institut für Wirtschaftsforschung	Casino-capitalism
Kenneth SINGLETON	National Bureau of Economic Research (NBER)	Contributions of macroeconomic shocks & liquidity shocks to risk premia
Ansgar BELKE	German Institute for Economic Research (DIW)	New kid on the block: Global excess liquidity and its implications for the sub-prime crisis

	General discussion		
11:40-11:55		**Coffee break**	
11:55-13:00	**Comparing with previous episodes**		
	Mitsuhiro FUKAO	Japan Center for Economic Research (JCER)	Comparison of this crisis with the crisis in Japan in 1997-98
	Karl AIGINGER	Austrian Institute of Economic Research (WIFO)	Comparing the current crisis to the crisis of 1930 regarding depth and political response
	General discussion		
13:00-14:30		**Lunch break**	
14:30-15:35	**Policy responses**		
	Kazuo UEDA	Tokyo Centre for Economic Research (TCER)	Comparison of non-traditional monetary policies
	Martin WEALE	National Institute of Economic & Social Research (NIESR)	Fiscal policy and national saving
	General discussion		
15:35-15:50		**Coffee break**	
15:50-18:00	**After the crisis**		
	David TURNER	OECD	Potential output after the crisis
	Dennis SNOWER	Kiel Institute for the World Economy	Proposals for an integrated financial, monetary and fiscal architecture after the crisis
	Suman BERY	National Council of Applied Economic Research (NCAER)	Likely pattern of global financial intermediation following the crisis
	John FITZGERALD	Economic and Social Research Institute (ESRI)	Fiscal policy to prevent property market bubbles occurring (experience of Ireland and Spain under EMU)
	Jean-Pierre DE RAAD	New Zealand Institute of Economic Research (NZIER)	New Zealand's economic challenges after the crisis
	General discussion		

（6）2009 年度 TCER マクロコンファレンス

第 11 回マクロコンファレンスは 2009 年 12 月前後に開催する予定です。テーマは特に定めず、マクロ関連の論文であれば、理論でも、実証でも、日本に関するものでも、外国に関するものでも良く、広く募集する予定です。しかし、日本経済・世界経済の最近の動向に新しい知見を与えてくれる論文を特に求めます。幹事は櫻川昌哉、塩路悦朗、チャールズ・ユウジ・ホリオカの 3 氏が務める予定です。

（7）2009 年度 TCER プロジェクト（旧逗子コンファレンス）

2009年度TCERプロジェクト（旧逗子コンファレンス）は「制度・組織と経済発展」というテーマで2010年1月30日に東京大学で開催する予定です。概要は下記の通りです。

経済発展の本質的な側面として市場の形成と拡大がある。市場は、多数の経済主体の活動を調整し彼らに動機づけを与える上で、現在知られている、もっとも有力なメカニズムである。一方、近年の経済学研究の進展によって、市場の機能はさまざまな制度と組織によって支えられているという見方が広く共有されるようになった。そしてこのような見方に基づいた研究が、経済史学と開発経済学の両分野で行われつつある。このコンファレンスは、経済史と開発経済学の知見を統合して、経済発展の過程における市場の形成と機能、およびそれを支える制度・組織の役割に関する理解を前進させることを目的とする。そのため、財、金融、労働の 3 つの市場について、経済史と開発経済学からそれぞれ 1ー2 本の論文を発表し、相互にコメントする。

編集後記

新型インフルエンザに悩まされた春の日本経済学会も終わって、皆一息ついていた 6 月 30 日の深夜、前代表理事の浦田先生から清野理事の訃報が突然回って来ました。理事一同、まさに茫然といたしました。今年度は公益法人移行に伴う細かい仕事が多く、理事同士でも頻繁に連絡していたはずなのに、誰も全く知らないところでお亡くなりになっていたことに、悲しみを禁じ得ません。願わくは、清野先生が今は安らかにお休みになっていらっしゃいますように。そして、研究員の皆様もくれぐれも健康にはお気を付け下さい。（グレーヴァ）

Newsletter に関するご意見やご感想は，代表理事 岡崎哲二 okazaki@e.u-tokyo.ac.jp または総務理事 グレーヴァ香子 takakofg@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい.

（財）東京経済研究センター
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 601 号室
Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp